

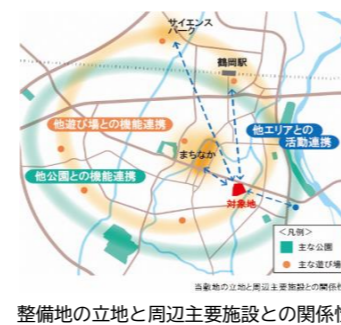
# コミュニティ・子育て拠点整備計画（現状と整備計画）

## <現状>

移転した小学校跡地の北側に鶴岡市立中央児童館と野外広場を整備（平成12年に整備）したが、南側は現在まで未利用地である。



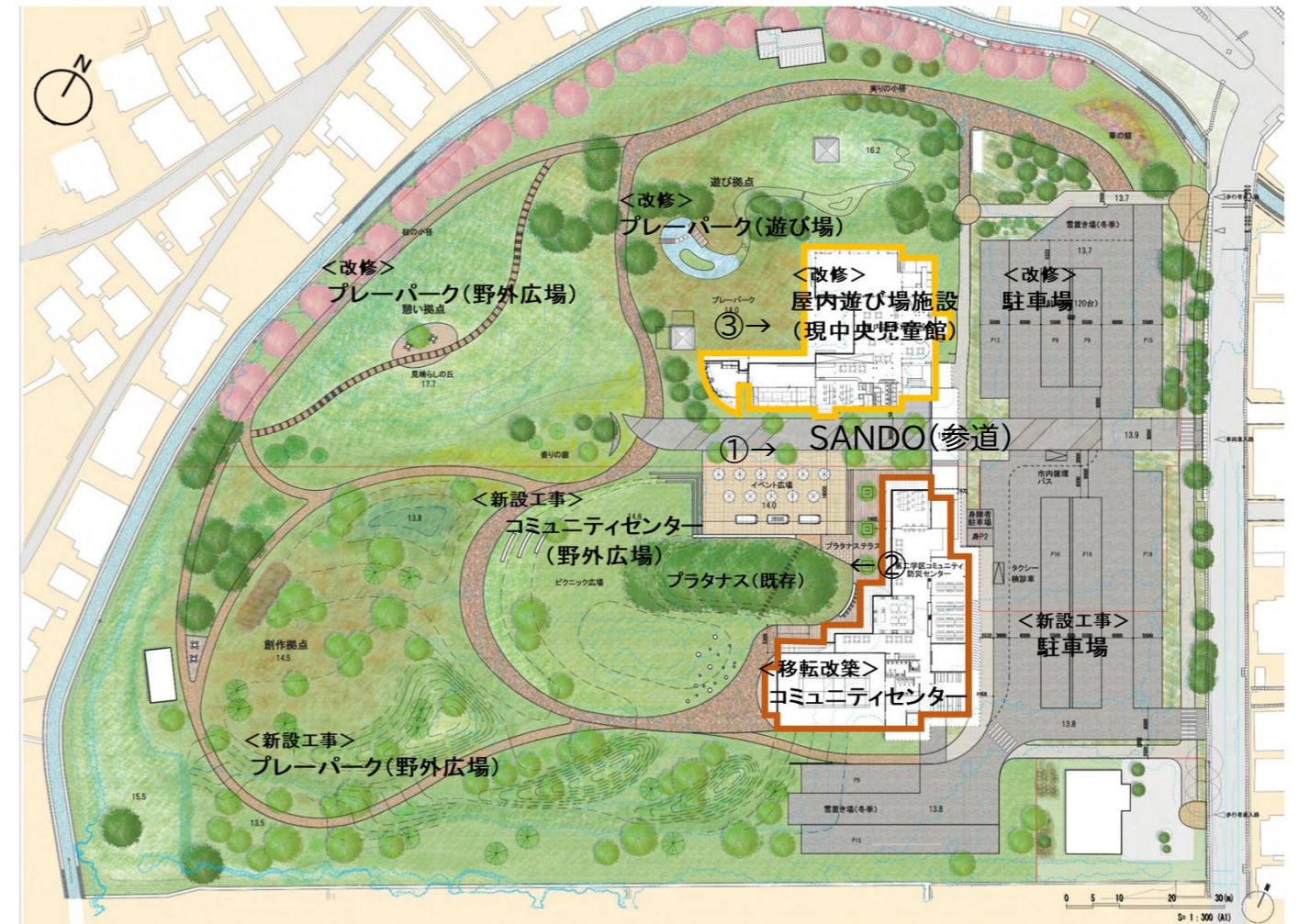
中央児童館	児童館	延べ床677 m <sup>2</sup> （木造平屋 築26年）
	屋外広場	7,539m <sup>2</sup>
	駐車場	3,734m <sup>2</sup>
	計	11,950m <sup>2</sup>
	未利用地	12,239m <sup>2</sup>
	合計	24,189m <sup>2</sup>



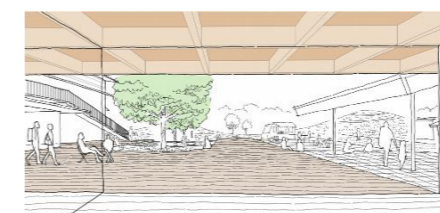
## <整備計画>

<既存の中央児童館と野外広場、隣接する未利用地を一体的な空間として整備>

散歩やジョギング、遊び、地域活動、週末のピクニックやイベント参加など、日常的に多様な世代が集まり、様々な活動を通じ、人と人、人と地域がつながる多機能拠点を整備する。



①SANDOによるイベント等



②コミセンからプラタナスを見た



③玄関以外からの出入り可能とした屋内外連続したプレーパーク

### コミュニティセンター整備の考え方

コミュニティセンターを多様な人が利用しやすく、様々な活動が可能となる場所に移転整備

老朽化の対応と地域コミュニティを強化するため、こどもの遊び場と連携した多機能施設として整備

- ①コミュニティセンターと児童館の間に、多様な人が集うことができる屋外空間・広場を整備
- ②中高生の居場所として、今まで無かった勉強やおしゃべりなど自由に集えるフリースペースを設ける。
- ③会議や懇親会、芸術・文化活動、音楽活動が可能となるスペースを整備し、多様な世代の利用に対応する。

### プレーパーク(野外広場)と屋内遊び場施設整備の考え方

こどもの権利を尊重したこどもの主体的な遊び場としてだけでなく、子育て世代などの大人の居場所も整備

現児童館の長寿命化と、プレーパークの屋内機能及び子育て支援施設、多世代交流施設として改修

- ①屋外・屋内のプレーパークの整備による、一年を通して遊べる遊び場を整備  
屋内外をつなぐ屋根付きの「はだし広場」を増設し、屋内と屋外の出入りがしやすく、連動した遊びが可能となる整備。
- ②こどもの遊びだけでなく、子育て世代や地域の大人も利用する施設を整備  
・子育て相談や子育てに関する講習等を行う地域子育て支援拠点を設置  
・地域の大人も利用できるフリースペース等を設ける

# コミュニティ・子育て拠点整備方針等（案）

資料3-2

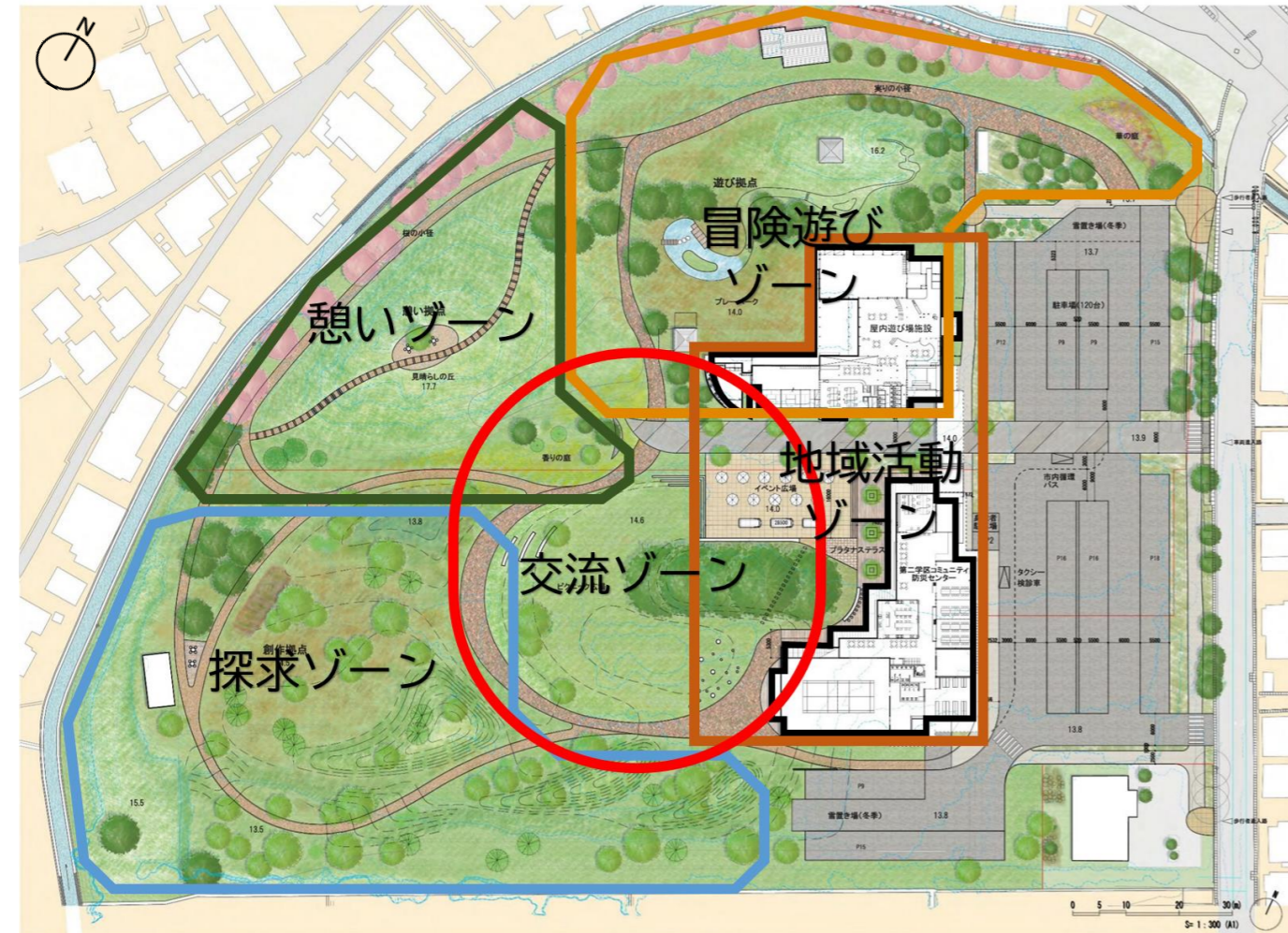
事業目的	○こども・若者の地域への愛着を醸成し、地域で活躍したいと思うこども・若者を増やす。 ○まちづくりの土台となる地域コミュニティを強化し、若者・子育て世代に選ばれ、高齢者も安心して暮らせるまちを実現する。	➡人口流出抑制
------	---	---------

事業目標	多様な世代（こども・若者、地域の大人）の交流や活動を通じ、地域とのつながりを深め、地域に愛着を感じる人を増やす。
------	--

基本理念	『集う・育む・支え合う みんながつながる交流拠点』
------	---------------------------

整備方針	1 第二学区コミュニティセンターの移転改築 2 多目的軽スポーツホールの整備 3 中央児童館の屋内屋外が一体となったプレーパーク整備 4 交流と連携を生み出す敷地全体の活用	拠点整備の基本的な考え  ○一体的な空間づくりを行う。 ○緑豊かで広大な敷地である整備予定地が持つ魅力を最大限に引き出す。 ○散策路や様々な活動・イベント開催を可能にする広場、屋内外が一体的に利用できる施設計画とする。 ○□コミュニティセンターとこどもの遊び場が相互の機能連携と相乗効果を図り、こどもから高齢者までが楽しめる多世代交流の場とする。 ○□コミュニティセンターは、これまで特定の目的や年代の人の利用が多かったが、用事がなくても誰もが立ち寄れる場所とする。 ○□こどもの遊び場は、こどもが主体となって遊ぶことができるプレーパークとして整備し、既存施設である中央児童館を改修し、屋内外を一体的に利用できる遊び場とする。 ○□こどもが利用するエリアの再配置を行い、保護者や大人も心地良いと思える屋内外の居場所づくりを行う。
拠点のコンセプト	「人と人、人と地域がつながる拠点の基本的な考え」 1 多様な世代の人が集まる拠点 2 利用者の心理的な安心感がある居場所 3 様々な利用ができる場所 4 多様な世代が参加できる活動の創出 5 信頼する人、共感する人、支え合う人とのつながりの創出	

拠点をゾーニングし、各ゾーンの機能により、こどもから高齢者の誰もが居心地が良く、人と人、人と地域がつながる空間をつくる



ゾーン及び設備概要	
○交流ゾーン	こどもから高齢者まで、誰でも利用可能な交流活動の場所として、また、各ゾーンを繋ぎ拠点の中心となるエリア 主な機能・設備 くつろぎや多世代交流ができる「整備地の既存のプラタナスを活用したテラス」「イスやテーブルがあり、キッチンカーの駐車スペースも設けられたイベント広場」「芝の広場」等を整備。
○地域活動ゾーン	地域の多様な世代の人が集い、様々な活動を通じ“つながり”を深めるエリア 主な機能・設備 学習や遊び・体験活動、多世代交流ができる「コミュニティセンター」「屋内遊び場施設」等を整備。
○冒険遊びゾーン	屋外の遊び場と屋内の遊び場(現中央児童館)が一体的に利用でき、こどもが主体的に遊ぶプレーパーク(冒険遊び場) 主な機能・設備 一年を通じた遊びや多世代交流、子育て相談ができる「屋内施設」を持つ「プレーパーク」を整備。
○憩いゾーン	こどもも大人も休憩したり、のんびり過ごしたりするエリア 主な機能・設備 地域に開かれ、多様な人がのんびり過ごしたり、くつろいだりできる「見晴らしの良い丘」「芝の広場」「ベンチ」等を整備。
○探求ゾーン	自然環境の中で、こどもや大人も様々な活動ができるエリア 主な設備・設備 くつろぎや癒しを求めたり、動植物の観察、植物の育成などができる「多様な樹木・植物」「起伏の有る地形」等の自然豊かな環境を整備。

## 【冒険遊びゾーン】

屋内外が一体となった常設プレーパークとして、雨の日や冬季でも遊ぶことができ、一年を通して楽しむことができる空間として整備する。※プレーパークはすべり台等の既存遊具ではなく、こども自らが”道具”や自然等の”素材”を組み合わせ、遊びをつくっていく遊び場のこと。



道具を使った遊び

木工・段ボール等の工作



土(泥)・水遊び、木登り

たき火

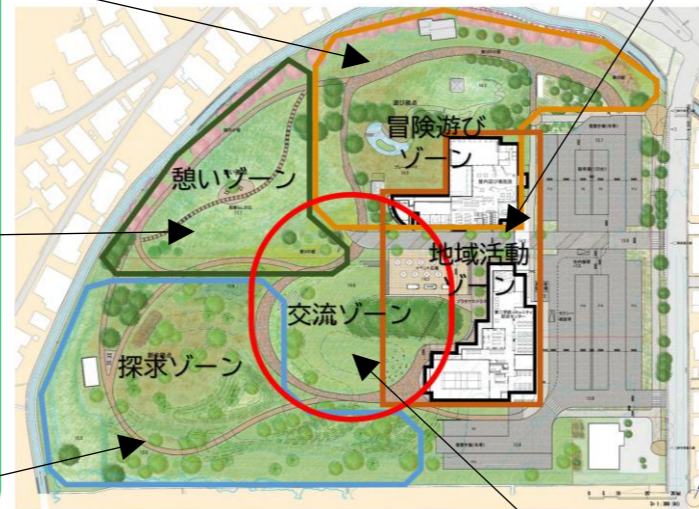
多世代交流

## 【憩いゾーン】

既存の山からの眺望を活かし、散策路と頂上に滞在できるスペースを設け、休憩や風景、活動の様子を眺めることができるように整備。ゾーン内にベンチや机、木を利用したハンモック等を配置し、より過ごしやすい場所として整備する。



ベンチの設置やシートを広げる場所、ハンモック等を設置



## 【探求ゾーン】

整備拠点の屋外は、視覚や触覚、嗅覚、聴覚など、五感で楽しめる場所として整備。特に探求ゾーンは、花が咲いたり、実を付けたりする様々な植栽や起伏のある地形を整備し、自然豊かなエリアとする。



自然体験

散策

草花

## 【交流ゾーン】

拠点整備エリアの中心に位置し、多様な利用者が交流を行うコミュニティセンターの屋外広場、イベント広場として整備する。  
・キッチンカーの乗り入れ可能なイベント広場 ・芝の広場 ・プラタナステラス



イベント

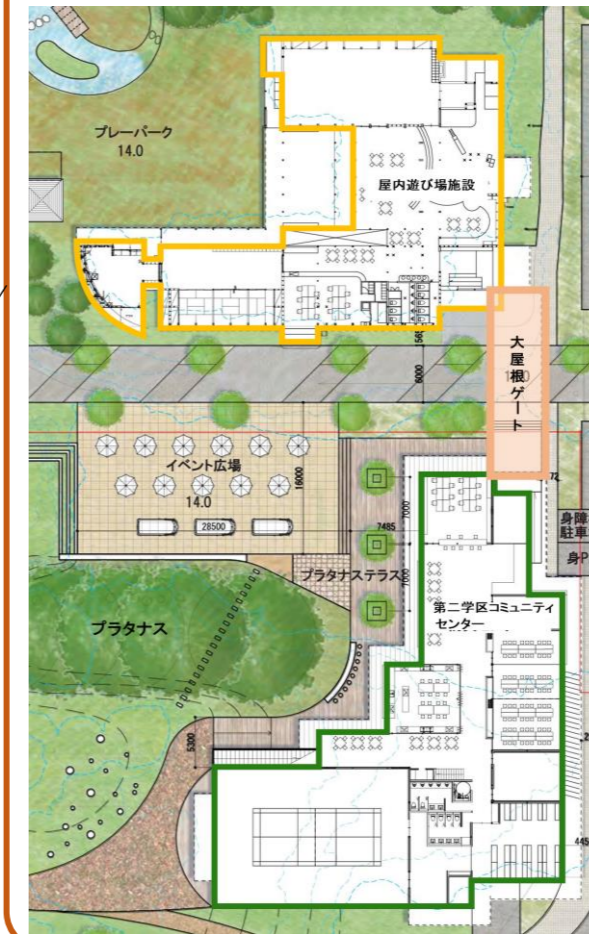
キッチンカー

プラタナス(現物)

## 【地域活動ゾーン】

地域の多様な世代の人が集い、様々な活動を通じ“つながり”を深める場所として整備する。

コミュニティセンターと屋内遊び場施設(現中央児童館)は、遊び、運動、集会、芸術、学習、料理など様々な活動のほか、福祉や環境美化、防犯・防災などの地域コミュニティの場となるよう、両施設それぞれの役割と利用用途に合わせ、お互いに補完するような機能構成で整備する。

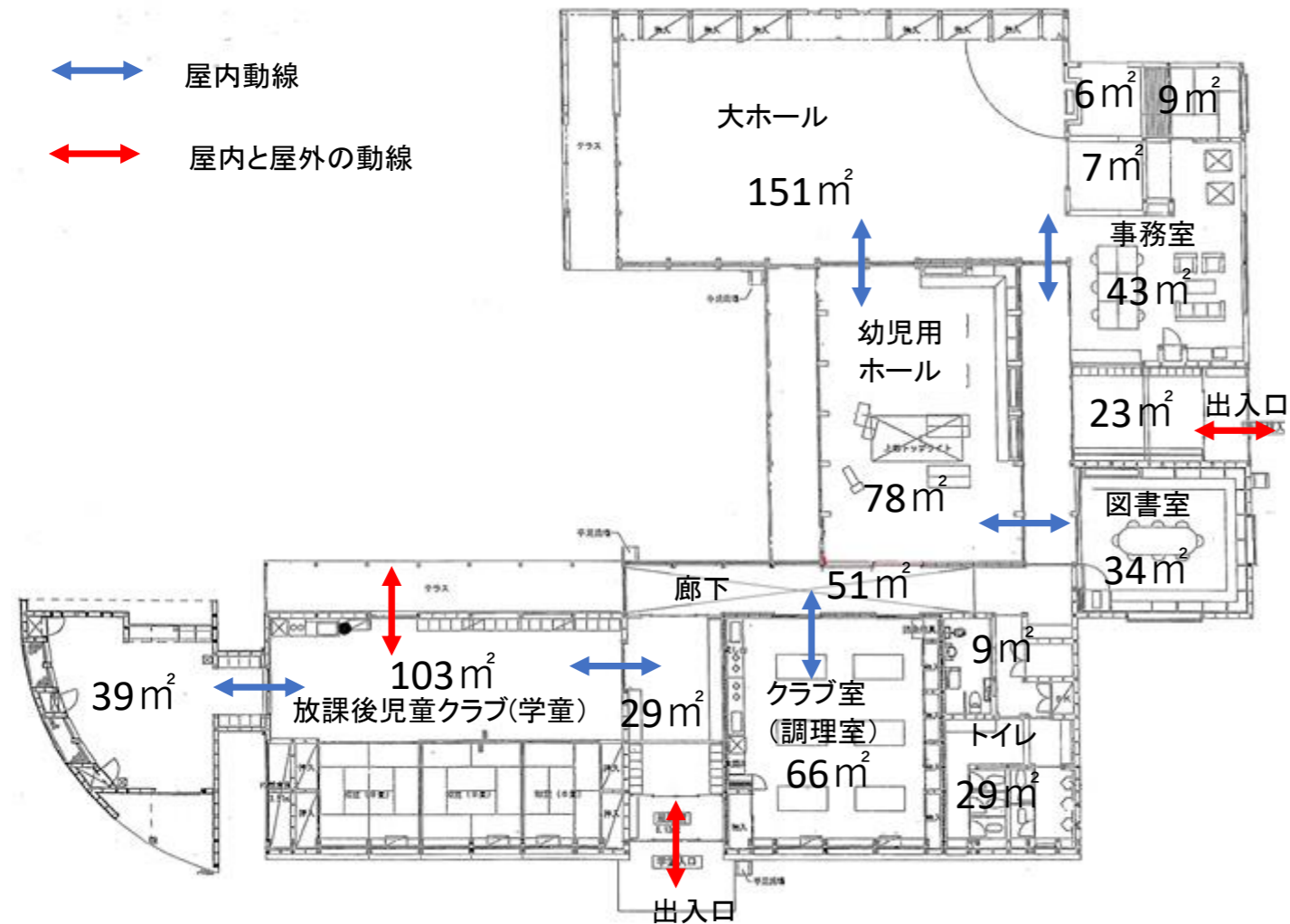


**屋内遊び場施設**  
遊びと子育て支援、多世代交流を主な機能とする。

**大屋根**  
両施設の出入口の位置を合わせて大屋根ゲートで繋ぎ、雨天時も移動しやすいように整備する。

**コミュニティセンター**  
生涯学習や健康増進、青少年育成、福祉、防犯・防災などの地域活動を主な機能とする。

## <現状>

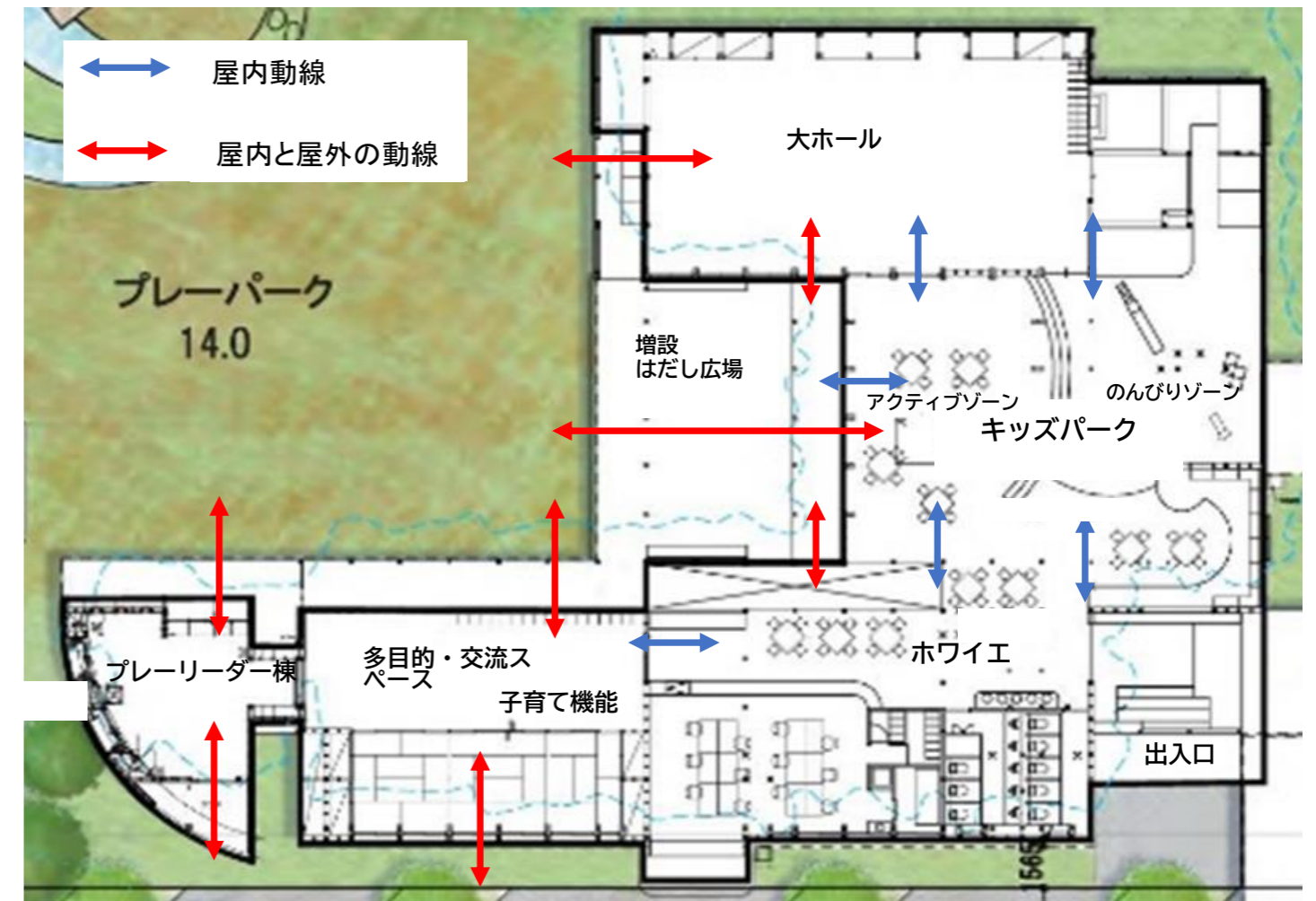


児童館部分	506㎡	学童部分	171㎡	計677㎡
各室計	372㎡	各室計	142㎡	
廊下・玄関	74㎡	廊下・玄関	29㎡	
トイレ・倉庫	60㎡			

## <改修方針>

- ①現中央児童館の意匠を最大限に活かした長寿命化を図る改修
  - ②2か所のエントランスを、コミュニティセンターと連携しやすくするよう、コミュニティセンター側の一か所に集約
  - ③現在の壁で仕切られた状態から可能な限り壁を取り除き、スタッフや保護者がこどもを見守りやすい、見通しの良い広い室内空間として改修
  - ④屋外と一体的な遊び、利用ができるよう、屋内と屋外の出入りしやすさを検討した改修
- 放課後児童クラブの対応
    - ・改修工事期間中から、放課後児童クラブを市立第二小学校へ移転する。
    - ・移転後も継続して小学校内で放課後児童クラブを実施する。
  - 18歳までの児童を対象とした児童館(児童厚生施設)から、子育て支援、多世代交流の機能を追加した改修
    - ・18歳までの児童を対象とした遊び施設から、子育て相談や多世代交流も行う、こどもから高齢者が利用する施設に移行する。

## <改修イメージ>



- 「はだし広場」(増築)
  - ・屋内から「はだし」で行き来でき、屋根付きとする事で冬季や雨の日でも遊べるよう整備する。
  - ・足洗い場や更衣室を設けることで、外遊びで汚れてしまっても洗うことや着替えることができるようにする。
- キッズパーク
  - 既存の壁を可能な限り取り除き、「アクティブゾーン」と「のんびりゾーン」の2つのゾーンで構成する一体的な空間に再整備する。
  - ・「アクティブゾーン」:水場を設け、野外の「はだし広場」と隣接させ、アクティブな活動や工作等のスペースを設ける。
  - ・「のんびりゾーン」:小上がりの畳やカーペットで計画し、乳幼児だけでなく、小学生ものんびり宿題をしたり、本やマンガも読めるゾーンとして計画。死角となる箇所、授乳室と幼児トイレを配置する。
  - ・2つのゾーンは、腰までの高さのゆるやかなカーブの本棚で境界を構築し、見通しの良い一体空間とする。
- ホワイエ
  - ・既存の木製柱はそのまま残し、壁はなるべく撤去し、柱が立ち並ぶ森のような空間として計画する。
  - ・保護者(大人)が過ごしたり、ミーティングにも活用できるようにする。
- 大ホール
  - ・屋外とはだし広場への回遊できるように、出入口を増やす。
- 多目的・交流スペース
  - ・こどもから大人まで利用でき、静かに過ごしたり、様々な活動したりできる多目的な場所として整備する。
- その他
  - ・こどもを見守るプレリーダー(スタッフ)の常駐場所を確保し、安心感のあるこどもの居場所とする。

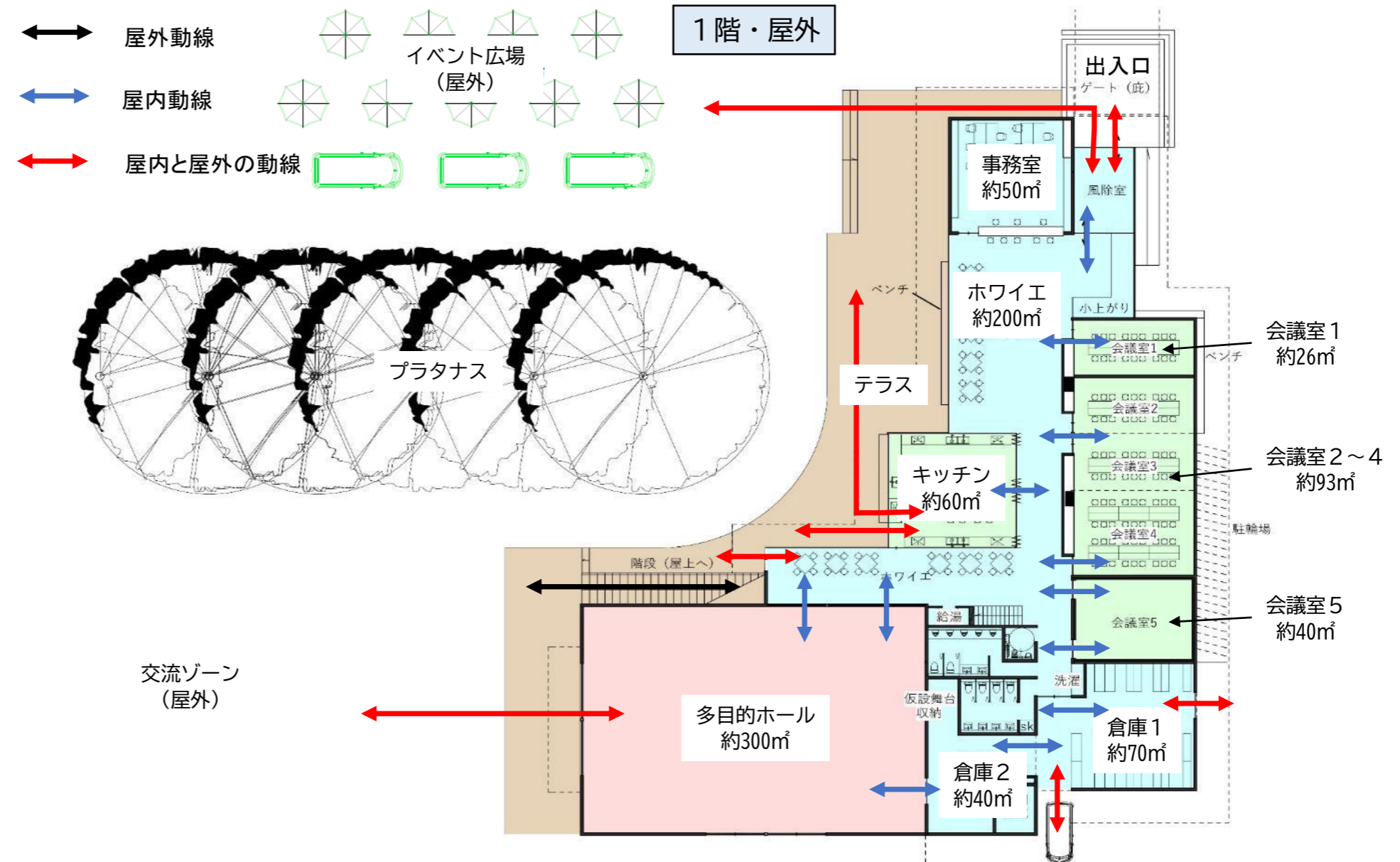
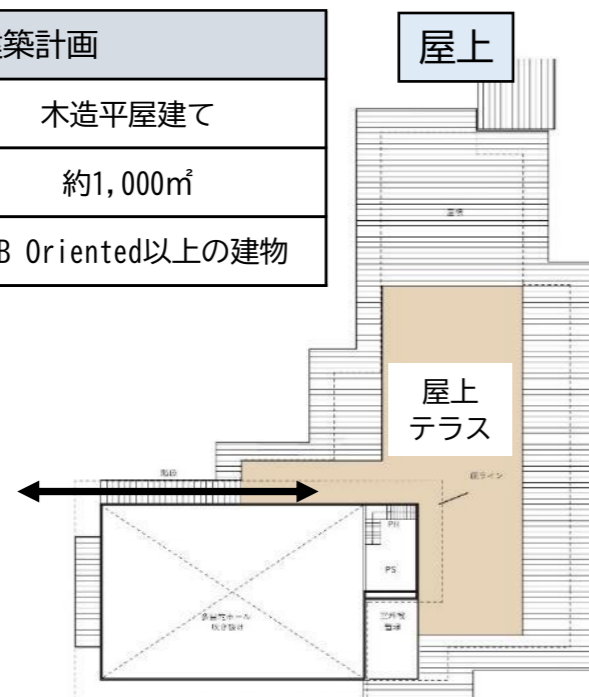
# 第二学区コミュニティセンター移転整備イメージ

資料 3-5

## 整備方針

- 木のぬくもりが感じられ、居心地の良い木造建築
- 特定の人だけでなく、用事がなくても誰でも気軽に立ち寄れるよう、人々の活動が染み出す施設整備
- 豊かな緑地空間を楽しめ、活動の幅が広がるよう、屋内外が一体利用できる施設整備
- 様々な規模、利用に柔軟に対応できる施設整備

建築計画	
構造	木造平屋建て
延床面積	約1,000㎡
その他	ZEB Oriented以上の建物



## 諸室計画

諸室	用途等	想定人数	計画面積	諸室	用途等	想定人数	計画面積
ホワイエ (ロビー)	誰でも気軽に立ち寄れ、待ち合せやおしゃべり、中高生の勉強スペースなど自由に使えるスペース。	40人	約200㎡	キッチン	料理教室や会議にも対応。屋外のテラスと一体的に利用できるようにし、屋外を利用したイベント開催も可能にする。	20人	約60㎡
会議室 1	会議や芸術・文化活動など様々な地域活動の場所。	18人	約30㎡	多目的ホール	運動、集会、発表、こどもの遊びなど、様々な活動や交流ができる多目的な場所。	200人	約300㎡
会議室 2~4	会議や芸術・文化活動など様々な地域活動の場所。可動間仕切りにより、様々な規模の利用に対応する。	10~70人	約90㎡	事務室	建物全体を見守りやすく、遊び場施設と連携がとりやすい位置に配置。施設管理者の打合せスペースも確保する。	3人+α	約50㎡
会議室 5	防音性能を備えた会議室で、音楽活動など多様な世代の利用に対応する。	20人	約40㎡	イベント広場 (屋外)	キッチンカーの乗り入れが可能で、様々なイベントや活動ができる広場。		